東海道中膝栗毛

初編 中

特
へ遠13
1164
2

へ13
1164
2

滑稽旨五十三駅初篇巻之中

日本橋より品川二里

品川宿自五反田あるそうや芝へ
門の雲風見よ風の日の森さぐるや大通の鑿
のごとくと元吉原もゆるがぬ世代のたゆうの名
ゆる音妻後妻より遊女の夜名と待一ちも京を
力も新よりそのゆ振袖の廣おとおさまる世
ほのいろりと竟舞のいろ人延喜のむかしも用
おれる仙人よりやけそ國くの名山猪化ぞも

海の
紙船
足うらなら
ゐる

巡見して国代よりの帥種と菜種あるを
菜茶ぐわしよりはりくんまのとと玉うりげうりの皮
どうりいぶるひつまくしゃるの尾のもはなまべ柳の
あうりよりおびくのうとゆうめうの法ふうえとうよ
のふうくりの金あのわハもうも杉本菜種の足
まと鈴く千里青のうくくえ貫うあくうあどうか
ひうくうちどうよ財のゆうとゆかる社風や保野
菜宮ようえ三のゆ友とめうくうしてむの坊よ毒か

法華へと出さして出行ちどよくゆくも弓矢の町へ
来うくを川柳点の和句集をおもひいでせば
うるなりくん来くえまるうくうり
とうみくうまびあくいかひうむどうのうもかく
独身のきんじゅの蔵の底買いどうも費と身上の
こうどかうくさ色とうもむゆうう去などう
且那方の仏御寄を和うよつあうまびあよ百姓地
後と加くう法華の加うとあうひうあ屋へ古僧と海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と綾しる上のもよおハとうあんど
さまざまさまざまげのあるよ浦せく
いとおりしろく歩けるもあり絵ろ春と新ろ浦ろ之
あそ浦しや 屋あるんのらびざ母子
けるもろふ名のを浦がもうとは
大喪とうんうハ麦ろうざんくの絵ろに春ん
飯ふくくむぎろうざんく 哭たるん
ちまハ子ともそう屋のくの

そまろう六々の海をうんく 川寄ヨリ加奈川エ二里半 百ん
屋ろく支度せんと絵をうあるの百姓のおそ母ろざん
あそ浦 二ざんたのくや九ハ コラ絵ろん見るせん
今の女の屋い去年まぐくハ柳で居らけろうん印ろ
あつざアどよでも拵よろうまろと見ん見るそしてめん
ろふ屋中の栗屋でハ庭のろよひろびさもをいあて
あくのおのうけものとろ拵くあんざ 絵アりヤア鯉のろ
のびうよ あそろう又鯉ろそよやんそろのろとおりさ

張ごらもぐをいそぐとたゆ〜咎ろ〜けがさめ〜ア
ヲヤいつのろよりろくろくとあろわ張りかお
ちちが参ろ参ろ丈ろくいろくろうめくりのをして
ゆろろトをれろろろいせよをくくひろとろいでゆくろ
あろだ一人ちナヒあのゆろと先拂「ちろアおく ろろりめをを
ひづとも富の人ヒちり
まりせろぐを引けおちりのいちが七ちを強くろもてと人
つる張るぜ八テろろりめい色りまりせふをといろい先拂
引ろ生馬のろちををれまりせろをを「るのにも をちろつ〜ぐ

で行るろのハ〜〜先拂あろの人せんぐろろひぐを張おいろ
ぐろろををいろろぐ毛岩の城で九文銭とろろをあろべ
ろ男ぐを「ヲヤヒまあろんきとんぐめよあろろぐを張ヲレヲろ
まどんもいく奴ぐまう行ちをぐろ尾がる
らんぐいのろい強く屋町ちんろの古用がしと
いふんぐを「ヲヤく引をろいでゆる人の笠をヲろ強へ
あさゆと延引ろいろろ張ろをアノ扶織の考さ
ち暖簾ろろ金玉グのぐひてゆる「とのさ長いて男

ごさぞ女中衆ゞ[illegible]
いろ〳〵[illegible]
[illegible]
て。ソレ[illegible]
サア[illegible]
[illegible]
「さ[illegible]でいふ[illegible]
[illegible]

[illegible]
コレ伊勢[illegible]
上の宿の[illegible]
[illegible]せんどのさんけ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]とい[illegible]
[illegible]

らうそくおちてくらさぐんまだいきまのようぐよ
ヲ 絵上 ぢやアげくそくあるくそのする
とかあめぐさもとばぐしやアぐくつりやアあるヲ
きるとめうしやアうりさうそあるよヲちるもたんの
くそもいるりんうぐぶくあるのぐだけてうくるを
いふとあよぐアノ法撰くぐうひどくちうのある女
よコノ世界くやアとあるよヲ法ちうくやアぐくん
でそぐふしやアぐるとよくうるぢうアひうぶんをぐけて

厩のうぐ奥あるくそくそのうけうとおくまぐぶ云
をぬくしやアぐるうくうぐ釈方の子ふやうくとおるを
りちよヲ買て来ぐけうくそのりちよヲ二ヲ三ヲかく
あめぐくちくぐ法ぢうんぐうむちやくとくくやアぐる
うくくくけよあうちあくそふちるとくつくくま法と
いやアぐくくんでうくもそくくアぐ探ぢくてるの養
くうアまくぐそあるけぐくちくおくうんぐうむゆのヲくる
ぐくくくくくアくくちやアぐるまんうくくもあんまうず

色そうめんでうどん 焼杉の下駄アひらあつくてそれ
さいるいまくしん 二人もあるまま桜を踏 文ようう
かうもりをおりくたぐり移ぐるよ 合川の蓋よ
来る 加奈川ヨリ 程ケ谷へ一リ九丁 表を所うるれ 鶴屋の形
をたうべいぼうも 刑場二階遊うんうつさの廊下
梅なぐわくして 酒おぐんの新色いろさよう 一ちの
あんぎうきて あやをもあるんやアせあつさうる 陸飯もお
ざんやうを煮そその者のうめさのもぐでんやアを

そそのかくんのをあぐりやアをうどんのあつさるのもお
ざんやうをお休あるんやアせ 二人さるまさ一人さいをつ
絵 ぐるとうやアをうたいう
ぐ時よるよがある トうさ八をそをうるをこうぐして
ちやあるのあぐをあくめ絵 さけをつひつけるむをめおぐんでるをうさく
てうさうづさをうちお
中くく わめくの焼くく 絵 おまちぐ金でぐんぐん
あうをむくくうべ お休あるんやアせ 矣がひろふぐでんやを
たぐうやくむをの
あくぐひろんそづく 安房上絵 まくつぐいている 絵 八

足さつ一けさうなへちとごろこと目ぬぐト
ぎぐけさと足ゆる目ぬのおさうるへ
さてい腹が癒ちてり　ちこの
ちこ八色どこてあかしくあぐけるる
味そのよ足ゆる癒り沖ちか
ちかりが燒ちるあちのるこり
被色と臭じて変と立出いろく　雑と参人鬱の
乳えんしべうち変よちれ　ものしたたぐり行かぐに

けに君ちぐまちうナニ三ヶ月の一色ちうあとけり
生よちりく　イセ　実　ぐんなちるまちん　温泉　ちうん
ともてちんとこぐ　イセ　ぐしちう　実お　刷ちちんぐこぐ
うちよちくあちちて　伊勢　実見　伊支　熊　懐山村出
ちくこ山ちおいてくちっの方よ屋さちんち
ちこ山のよくくえこのい直ちでわちう　イセ　実
とちんこ人こちちちさあんちちぐんあちこら
ぐこあちこちよあちちて　伊　そのこちこちよちて

うちよのんちうとうみ峯のぢへさあがあるん部
ぎ ぢへをあうもを 絵 ぢへをあうもを
さあいてうかうけ イヤ あうさあんあてごうう
ゆもよく ちうくかうる 絵 今じゃ アちんとうみう
ちうう絵ぐおいうぐいく 時分 ちうぐの 熊野
ぐうとうてみそのうさあぐ四ヨ 絵 くおうさ
るとあうものをみけうけうこのうさちうん
イヤ そまてかさアよくちうくいうる 絵 ぢうんのお

ううさあア門の馬ちうとうみ男と絵ちうなうしゃうさ
ふ イヤ ぬうく 絵 コリヤ 小 絵 ぬうさあどあうくちうる
びうさうう イヤ ちういひぐうてちうゆちうさあん 絵 ぢうち
ぐうさうんくゆうちうさうんく トうみうちうる ちうそゆ
絵 なんとふぐうちうよくちうん門ちいうるうちうみ イヤ いうく
トうちうをしてゆちうの白つまのいゆまうう マイくどまゆイく
うんもナどあのまううあうちうう絵 ちうのいうもまう
ちうん イヤ くうん ゆ イヤ ア絵 ちうよヲ あまうちうんくまう
うん イヤ うちうくゆ人コうん門ちうくちうくあん行ちうあの家

が生まれのくるまをヲイくといるくるのもと
ぞうくうくくんまるハちやァ イセ ヲイくらもも
うくくのらくハ絵遊わしもものちよヲろろ
てくまくん張くめくいとくぞ トくるのくハくァもん大
ちくう下坂井村コレよめくの村と蔵沢とくく秋にが
ちくん 先のちよヲくくくまくんそふせるんけ
りやァくんるのいるくぞあくくあくくやァ
くまくくく くん浅くくくつぐまくハくトあくくふく

ゆ 絵よくや 程ケ谷の駅よ法く 程ケ谷ヨリ戸塚エ二リ
九丁 表例くう 旅荘の傾くくくあく 留あんる
の影いさるぐう 面とうぶ ぶくくるごとく まるくめくくて
いづまも井のあるぐくう 面とうの絵のあぐまとんたるい
掛てそいうくん 変ハ降よの富とらひくる而くるん
笑へくく 元人とのもくるくくくくくの人完くもえ入
あぜくよ お方くうや 完ぐるあんドウく 如くる全おくあくろ
ま 花 イやぐんるハむくくやぐあまへのくふとくくく

ソレハ畜生めがとゐりさぶらうアソレく「ヒヽヒ」く
ト又あとゝゝ服り〜おとゐつまうと
ゑび人二三人 てゝゝゝ
りげらうア服いもげてもうみでぶんまもおとゐり
あさんまもせ 服だらうアいへまがなくちやアおまんまぶ
ふうまうまう極へ服おり〜のあがらまう極へかうがおとゐ
やちやアだうふくさ服でいめへまんまるさるゐう
と服ゝゝゝ

とめざアいきゆんたべいトゆきさる 後ら美ひ体ど見て
婚姻長ま入後父こぢ法ろうと
おとめろいうん 後若とそ先女
戸塚おていきのこりそ家
とおろいろ張わごこ和歌板とふところ
いろ毛ん感おの塚ろとべ
むらげろ内よろる田塚
祈ろまだちるの塚ろり

物語十三

ちでふろや日も西の山のたふちろづきそれが
戸塚の紙ふなんとあろべしといそぎ行たすぐら
頭コレこたやまろせんたーがあらア左んでも
乃中い紙盆とちくそうそろ世ろうこころひとろ
ちろうとぐたるおいろい紙代ーやア世代
といふもんざうろ紙ろとろいろもいくふろわざこよ
つくを毛ろ泊りくでいるまんとおやぶのぶんよ去
よみどやア後くろ可ちまい妙ぐ左ろ後それどや

アもとの孫へでいくそんならかとうさんといふのら
孫そのさきをはをぢりと解るさとうぐ祖父く
物ふ「ぶりくそのいろくまたがでもあつくら
けむもとぐめくめくよ孫丑くそうアいろく
ヲヤめ戸塚ぐ 戸塚ヨリ藤沢エ二リ 無屋ふそよろ
ゆ「とうさんや孫なんぐゆ「てどやア孫つくうあ解な
さんとりつくひつぐ孫人のゆ「ちんさのさぐ孫八
どあさうおとあさとカくてくる富屋ふれう孫て

物中ノ十五

あくゆ「コウむうみの内ぐいうくぐぜ孫コレあ孫さん海て
くまる孫ん赤ら孫作丑と孫鏡いもくあつくであんや
どんかりまう世風孫左むさそふぐろふ「ぐぜんくゆ孫ぐもふふさ
ぐりくとあぬゆくたくこ
ろありまぐつきあくくぐ
とめざろふい富と孫蓮まとくまくう
たくさんくあめの石あふ戸塚月
そまくう富ぐろまこいくくうくう孫くくぐやの
合富あれてんこカんゆうあまびゆぐそくふたよ

つまて弥太郎とこゝらと海くゝんなせへ
久おとゝのうるさまさうせ南もあいやぐやいさるかさ
ぐうまゝとう私うさだうあうまもあ弥太郎てんな
こゝまんる門とあぜあて弥太郎の飛こゝうこゝい形
宅じでおざうやんソレおあぐお湯いどかぐト山門女房
でこゝうゆあざうろしきわ弓ら弥太郎んじや弥太郎
づゝとさゝんゝゝ
さんおめくゝうぐもろゝふゝておう弥太郎にて
おまゞ御ゆまもざうといもんでおそうや月二御ゆま

といそぐうトうわを見ると弥太郎目つきで考ゝせる
史口ごゝとといひをおゝうゝゝやんとあゝゝひゝアひ
わ弥太郎さんちやとひうゝゝうんるトさゝゝこゝゝうゝ重
女もぐにおゆゝおりゝなゝんゆせ弥太郎あの女の御アア
ゝうゝ重秤ゞ重ゝんでなんのゝゝい弥太郎ゝゝゝゝの
ゝ緑石とらゝよりんゞわ月ゝうゝやアゝゝふと弥太郎月
如ゞゝゝさゝハわ月ツトゝうゝん湯ゝゝうゝ弥太郎ゝうト月
づきと弥太郎月ゝ酒ゝう五どりのゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝうゝうゝあやまるわ月ゞ酒と出ゝやアゞゞゝゝゝと

とろう張まつまさとるよ　女トいくおぐろまめぐひとえ湯へえ入
女ひとりつめ　たづるまさ山わ張えばちそうぐコウ
おいらぐ張父さそゆ　あぐらうたへといってらんを八イ
さゆうやまたうと　えへ湯ろあぐりて張ろうたんざ
コリヤアのるハコレよめへえゆ湯へてこやわイヤ
のんでうういろふ張ヨくこあへもいだのこさく張へりんざ
遠入てこやる張ハ知もてこ張ハ知もおぐろうまたあぐ
ひとつめあるまさた張イヤ山ごこーこさんあまでい

めんまくぐ張イヤ山時ようゆ張おぐろちんこさくー
ろさハ今とあ和あ張ろまーてあろまーさぐ今ん
ぐ張ぐこでやふたりまーてをまいち今日ぐ張雨
でおぐろ十人あるさぐ張いそめおそゆく
そまぐ張ぐつくひとろさー上まちものであるり本
うろ張ぐよ山張ぐ代とうぐくのでんぐさりまたあお
ころあさちくめあぐつくちろうまた張イヤ支ん
ち先おりぐこんまーはちそうふたろてんちろ

ごろごろのどくご 飛二サ 出まえり なか今よおもん
りめもでさん 張 イヤりかおあんなるる ハイ
はゆるつとと トつひそそくくわ ふそそ 絞ろぞあれ
りわハもろ出て
まくぜくむやうさたぐ ろいあうぞく 張 コレ ちゆまだ
とりよ一ぷん 湯へ 這入て ろやその由ようるあまぐ
のんぐ ちまいつ ふ そぞ あざろふとおりつく 湯へ 入
てわそもあふそろ 張 ヲ 張へヲ 見いまぐ ちぐ ちけ
ざまくよサタ ちぐの 張へ 張 りよろくふ 張そいろア

ドレりよひとろ 紙車 そうろふ 和 イヤおいろの
ちまぐ トちやろんよつぐそ ろさ わ ア いて 酒ぐ 時よ 着る
いろうろ ぬがとも 白板 ささ ちよ ア あんめく 漢せう
ぐよ 車 ろびゆぐじ ヤ ア 張へ コ ろ ろんは ちその
ミがいろちろうめくおめく ろ 張へ だ ろろ ろひるせく 張 だ
クタいくそろやアあくくのろるよろあろろりぐ 時
ふりよ 吸りのぐ ぜそ ろ ぜ あるりのぐ わ ぜ まちあよ ト ま
いぐろろろるの わ でろく 今よそろていろア ヤ あむ
ろとのぐき

さん神さまへあげさのぎイヤアくるぞく　トひざとを
ゆるとゆそんるゆ　おてくしをとうまはせう　トりくゆく
吸りのとりそあ　みくるりまう
ぐは吸りのゆ　ヲヤ　あくそぐアもゆまるいしりやくあ
みそじやアあんめく時よてくしいんどゆぐ　せくしく
後へくこと今りくいくさい　ゆみきそゆるおぐ
ト山内女ゆくくく

めぐりあひてしのびあへるはつかしきかぎりなるに
のぐるまのおやこのあんがてにてかたらひ給ふ
ひとくあるにもあらずあやうきかぎりなるに君とかたみ
おやこのあいらうにてとどまりぬるをかなしくも
うらめしげなるかぎりなるに人々はいとかなしく
ものうらめしげなるもあはれにまゆみもうつくしう
まの御のおといみじくてはかうねも
ゆくへもしらぬ君のあるはさうけく侍る
おんの御せうとのあるはいとかなしくものうくもあるかな

ものとくもうるさくもうるさくもうるさくもうるさく
今かうしひとりせばひとりの御をおもちのまうぐ
うまめしりのの御をあるうるはゆくうの御
御ふのをえ色あるうるはゆくうの御
はうるさうとおうしうるさうけくうるさうけくうるさく
一おんうるさくおとおんなうるさく
二ぞうしの御をうるさけうるさう
御はぞうるさうておんうるさうへつうるさうひけしうるさう

耳の根よりくもひぐ〳〵と数の脚の様なるや数を
を動かすの物く毒ヒイル〳〵ちの蔵ブウ〳〵く
きもちあ人物よさあり其ぐあハア左ラんあ人ライく
ぞうそるく此内後もこそもあるこれバゆゑて後も
おそくもあるもあまぐもあるうぐし
ぞれバりゆくそそそうきうきうきくくく

あるうきぬそのうへ　あつちふどしのうへ　もたくてはあらぬそのうへ　古へ用いよめるい
ふおつうへかるがお　捻用　弓　ちやんつとや
ろうとそやうちうち　佐　コリヤ　見文　ありがうん
帳　見文ぜよう　ゑひこだうこ　文法　ちやうもも　坊さ
八しいめまん　〈下ノ十ノ九〉　つづく

滑稽五十三駅初編巻之中終

45611
3